



今月のりんご園の作業

三月ともなれば、剪定も早い人は月始めに終る。遅れている人は、雪のとけぬ内に急いで仕事をすめよう。剪定枝の取片付けても同様雪がとけてしまつとなかなかやりにくいので早く終るようにする。剪定枝にも越冬害虫の卵や幼虫がついているから、片付ける場所も注意しなければ後で害虫の発生源になるおそれがある。

次にそろそろ昨年度の経過を見て本年度の計画の樹立や農具等の整備、農薬、肥料の準備等はこの月の内に大体終えてしまう事だ。特に噴霧機は雪がとけ畑にはいれるようになつたらすぐ使用するものであるから、早目に整備する事が肝心だと思う。

今月は一つ越冬害虫の防除を中心と説明しよう。

リンゴの害虫で、芽出前の防除、即ち薬剤撒布の対象となる主な害虫の名前を上げると、リンゴカイガラムシ、オホワタカイガラモドキ等のカイガラムシ類、赤ダニ、アブラ虫等である。これらの害虫はそれぞれ越冬形態が異つていて、害虫の発生をおさえるのに大変効果がある。

カイガラ虫類のうちでは、リンゴカイガラは卵態でカイガラの下で越年する。又サボトゼカイガラは幼虫態で越年し幼虫はあちらこちらと移動してカイガラを作る。一度これらのが害虫がカイガラをつくるとなかなか防除しがたくなる。雪どけ後直ぐ、まだ芽の出ぬ内に機械油乳剤や硫黄合剤をかける事はこれらの害虫の防除には大変役立つものである。すなわち、芽出し後だと

余り濃度の高いものは薬害を生ずるので撒布出来ないが、芽出前であれば濃度の強いものを撒布することが出来るからである。次にこれらの害虫に対する薬剤を説明しよう。今までは主として機械油乳剤や濃厚硫酸液剤の撒布が実施されていた。しかし最近ここに新しく登場したのは、この機械油と、ダニ類、カイガラ虫類の特効薬と知られた、ダニ・カイガラ虫類の特効薬と知られたDNマシンゾール及びDNスケルシンである。次に二・三実験例を上げて見ると次表の如くである。

例えば赤ダニに対する実験例では、

| 農業名 | 平均葉当り成虫数 | 岩手県中野試験地 | 供試薬名 | |
|-----|----------|----------|-------------------------------|--------------|
| | | | マシン油乳剤×二〇 | D Nマシンゾール×八〇 |
| 無撒布 | 五〇 | 五一 | 二・四一ジニトロ一六一シクロヘキシルフェノール (D N) | DNマシンゾール×四〇 |
| | 二六 | 二九 | 二・四一ジニトロ一六一シクロヘキシルフェノール (D N) | DNマシンゾール×八〇 |

(青森県リンゴ) (試験場)

以上二例でもわかるように赤ダニの卵に對する殺卵効果は機械油乳剤の二十倍液に匹敵、濃厚石灰硫黄合剤に比すれば遙かに卓効がある。しかも機械油乳剤よりは取扱いが簡単で使いやすい利点があり、本号の第一回目の撒布に是非とも本剤の使用をすすめたい。最近本道における赤ダニの被害は甚だ大きい。これは肉眼で観察しがたいの見落し易く、たかをくつてみると一斉に発生し、リンゴの木に対し大影響を与えるから特に注意する事が大切である。カイガラ虫に対する効果も従来の機械油乳剤、濃厚石灰硫黄合剤に比して何等劣つてはないのである。ここで注意する事は、如何に良い薬剤であるといつても粗末にかけてはなんにもならない。出来るだけ丁寧にかけた事を希望したい。青森県東北農試の豊島氏は「すぐなくとも反当二石は撒布すべきである」といわれているが笑に良い言葉である。当業者はよく胸の中に入れておく事が必要であると思う。

次に先月もふれておいたが、腐爛病の発生した部分を見つけたら早速病斑部を削り取り濃厚石灰硫黄合剤とか三斗式ボルドウ液を塗布する。

この病気は衰弱すると出やすいから、本年は特に着果過剩にならぬよう気につけると共に充分施肥を行つて樹勢の回復をはかるようにする事が望ましい。

次に草生栽培であるが本誌中に、東海近畿農業試験場の星野氏が説明されておるから大変参考になると思う。今まで草生栽培と言つても雑草草生の方が相当いるかと思うのだから、この際優良牧草に切りかえて合理的な草生をおすすめする次第だ。種子も何時でも播種出来るからといつてのんびりかまえる事なく、春の内に準備するよう

| 牧草と園芸 | | |
|--------------|----------------|-----|
| 昭和三十二年三月一日発行 | | |
| (毎月一回一日発行) | | |
| 定価三十円 | 第三卷 | 第五回 |
| 送り料四円 | | |
| 編集兼 | | |
| 发行人 | 五十嵐 | |
| 印刷所 | 三田德光 | |
| 発行所 | 札幌郡豊平町美國印業株式会社 | |
| 振替小樽一八二四番 | | |